

2024年 4月 1日

研究休暇報告書

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

経営学部経営学科

教授 石垣 智徳

受入研究機関等：南山大学研究室、大阪公立大学、自宅等

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

目的：1. 大学における IR 推進活動に関する研究

2. これまでの産学連携研究の成果の取りまとめ

(以下、本文)

2023年4月1日から2024年3月31日まで、研究休暇を取得し、その報告は以下のとおりである。

4月から5月で当初構想程度であった大学における IR 推進活動がどうあるべきかについて、モデルの素案とその進め方や必要なデータの集め方について議論を行ったことによって、より具体的な進め方や仮説といえるものを導き出すことができた。

6月以降はこれまでも継続的に行っていた出雲殿との産学連携研究とミタチ産業を含む産学連携研究に取り組んだ。

出雲殿との取組は、出雲殿（のウエディング部門）のブランディングであり、どのように良さをターゲットに伝えるかが課題であった。結論としては、ウエディングではないイベントを通して、出雲殿ならではの食品の内容が分かる提供（クイズ形式）やアトラクション（プロジェクトマップなど）を行うことで理解が深まるのではないかとということとなった。その検証も参加者アンケートをもとに行った。

ミタチ産業との取組は、食品販売の際に POP やサイネージ（TV モニタ）がスーパー等でよく使用されるが、それ以外に香りを発生させる機械も取り入れることに視覚、聴覚、嗅覚に訴えると販売促進になるのかという課題である。成果としては香りと映像はそれぞれ個別に使用するのではなく、同時に使用する方が効果が出るという結論となった。ただし、香りはあくまでも疑似的に作成されたものであり、個人によって快く思う場合もあれば、快く思わない場合もあり、更なる試行錯誤や対象となる販売促進の対象も吟味する必要があることもわかった。

大学における IR 推進活動に関する研究については、成果物の作成まで到達できなかったが、少なくとも考える時間をいただいたことで前に向かって進んでおり、近い将来には何らかの成果物をまとめたいと考えている。また、これまでの産学連携研究の成果の取りまとめについても多くの産学連携を行っているので、複数年の取り組みを何らかの軸でまとめることまではできなかったが、今年度も新たな産学連携研究の成果が 2 件でたと考えている。これらの貴重な成果を今後の研究と教育活動に生かしていこうと考えている。